

自分も人も大切に
 ~思いやり
 ・チャレンジ
 ・しなやかな心~

道標ない旅



令和4年度 第12号
 2022.6.21発行
 葉山町立長柄小学校
 校長 益田孝彦
 Tel. 046-875-6860
 Fax. 046-876-0682

<http://www.town.hayama.lg.jp/nagae>

◆◆ 3年生以上の保護者の皆様には、令和4年度通知表の書式改訂について、お知らせしました。 ◆◆

昨年度までの「長柄の子」では、ほとんどの教科は単元ごと（学習内容ごと）に評価を行ってまいりました。その結果、「知識や技能の量」を重視し、「どれだけ知っているか（知識）」「どれだけできるか（技能）」という結果報告の評価になっていました。それは、主として保護者や児童にとって分かりやすいという理由が主たるものだったと思います。

一方、近年の社会の変化は、複雑かつ予測困難となり、どのような職業や人生を選択するにせよ、すべての子どもたちの生き方に影響するものとなっています。このように変化の激しい社会においては、子どもたちが自信を持って自分の人生を切り拓き、よりよい社会を創り出していくことができるために必要となる「生きる力」を育むことが強く求められます。

そして、そのためには知識の理解を問う評価だけでなく、「なぜ、そうなっているのか。（主体的に取り組む態度）」「その知識・技能を使ってどうするのか。（思考力・判断力・表現力）」などを評価項目に加えることが重要になってきました。

一昨年度から全面実施の学習指導要領においては、児童・生徒が学校教育の中で身に付けるべき力として、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の3観点ですべての教科の評価が行われることとなりました。そのことを受けて、本校の通知表の評価も、3観点による観点別評価を導入するかどうかについて検討を重ねてきました。そして、3年生以上の児童に対しては、教科については、通知表を3観点別評価でお伝えすることに決定しました。（今回、1・2年の改訂については見合わせています。）

これまでの「長柄の子」と評価項目が変わるので、はじめてご覧になった保護者は、「すこし分かりづらいな」と思われるかもしれません。しかし学習課題（単元）に対して、「わかる・できるからいいだろう」ではなく、その単元・題材に対しての向き合い方や、身の回りの生活に生かそうとする態度を育てようとする考え方が重要なことを、学校の通知表で示していくことが必要と考えました。

また、中学校の通知表からは、5段階の観点別評価が提示され、進路等を考えていかなければならないことを考えたとき、小学校段階（3学年以上）である程度観点別評価に触れておくことも、大切な小中連携の一つの要素ではないかとも考えました。

学校がお伝えする学習評価は、学びの主体である児童にとっても、自らの学習を振り返って、次の学習に向かうことができるようなものであることが必要です。

「分かりやすい」と言われてきた単元別評価は、あくまでもその単元における「知識・技能」の習得状況結果であり、結果報告のわかりやすさが特徴でした。しかし、予測困難な時代を迎え、「資質・能力ベース」の学力観に移行した現在、児童・生徒が次の学びに向かう上で、参考（力となり、分かりやすい）となるものになり得ていないところに、課題が生じてきたことは見過ごしてはいけないと判断しました。

◆◆ ところで、観点別評価は本当に単元別評価より分かりにくいのでしょうか？ ◆◆

次の例で考えてみてください。

社会の1学期を単元別評価した結果

日本の国土や気候の特色についてわかる。	○
日本の農業の様子についてわかる。	○
資料を読み取り、活用しながら、調べたりまとめたりする。	△

理科の1学期を単元別に評価した結果

天気の変化は、雲の量や動きと関係していることがわかる。	◎
植物の発芽には水・空気・温度が、成長には肥料・日光が関係していることがわかる。	○
魚の誕生や成長のしかたがわかる。	○
台風の発生や、天気の変化を予想する方法がわかる。	△

という児童がいたとします。

この評価をもらうと、何（どの領域）が出来たのか、出来なかったのかは伝わります。そのことをして、「単元別が分かりやすい」と評する保護者の方は多いと思います。

しかし、本当にそうでしょうか？2学期には対象となる単元自体が変わってしまいます。

もし下の観点別評価だったら、児童の学習改善に活かせる分かりやすさはどちらの方がよりあるでしょうか？
どちらの方が2学期の学習改善につながると思いますか？自分に足りていない資質能力や学習方法の工夫改善点に気付けるのは、どちらの通知内容でしょうか？

1 学期の社会が観点別だったとき

国土の地理的環境の特色や産業の現状，社会の情報化と産業の関わりについて，国民生活との関連を踏まえて理解しているとともに，地図帳や統計などの基礎的資料を通して，情報を適切に調べまとめている。	○	知識・技能
社会的事象の特色や相互の関連を多角的に考えたり，社会の課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり，それらを説明したり，議論したりしている。	△	思考力・判断力・表現力等
社会的事象について主体的に問題解決しようとしたり，よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。	△	学びに向かう力・人間性等

1 学期の理科が観点別だったとき

自然の事物・現象についての性質や規則性などについて理解しているとともに，器具や機器などを目的に応じて工夫して扱いながら観察，実験などを行い，それらの過程や得られた結果を適切に記録している。	○	知識・技能
自然の事物・現象について観察，実験などを行い，主に予想や仮説を基に，解決の方法を発想し，表現するなどして問題解決している。	△	思考力・判断力・表現力等
自然の事物・現象に進んで関わり，他者と関わりながら粘り強く問題解決しようとしているとともに，学んだことを学習や生活に生かそうとしている。	△	学びに向かう力・人間性等

例えば、例に挙げた児童は、理科・社会の成績を上げていくためには、2学期に向けては、2段目の観点「思考力・判断力・表現力」の観点を頑張るか、3段目の観点「学びに向かう力、人間性等」において頑張れば、成績の向上につながることが出来ることが分かります。

評価改善のための努力の方向性は、これまでのものよりも実は分かりやすく示されているとも言えないでしょうか？少なくとも、判定に使う評価規準がどういうものかに関心を寄せるのではないのでしょうか？

通知（お知らせ）でもお伝えしましたが、「通知票の内容（評価）」は、すごく分かりやすいと感じて頂けるものではありません。ご質問等がありましたら、担任との面談を活かしたり、質問をしてくだされればお答えしていきます。なお、変更通知が、年度当初には発表が間に合いませんでしたこと、心よりお詫び申し上げます。

◆◆ 6月17日は葉山めだかの会のご協力で出前授業を実施できました。 ◆◆



昨年度3月に出前授業を復活し、久々の実施をしましたが、今回は6人のメダカの会講師をお迎えしての本格実施となりました。絶滅危惧種に指定された固有種の「くろめだか」の歴史的・環境的背景を伺ったり、戦時中くろめだかを使って防火槽等にわく蚊の幼虫（ボウフラ）退治をした体験談を伺ったり、実際の水そうでメダカの観察をして、雄雌の判定に挑んだり、充実したメニューを提供頂きました。

◆◆ 6月10日には、古墳のお話を6年生が聞きました。 ◆◆

6年生はコロナウイルス感染等での学年閉鎖等もあり、古墳に実際に行くことは断念しました。代わりに、「長柄・桜山古墳をまもる会」から〇名の講師に来て頂き、体育館でお話を伺いました。写真は作成された「古墳新聞」の一部です。



◇◇ 延期していた授業参観（3-2・4-1）を7月1日（金）に実施いたします。 ◇◇

担任側の都合で延期をさせて頂いていた、3年2組と、4年1組の授業参観ですが、7月1日に実施させて頂きます。児童の出席番号が、2校時目を奇数番号の方、3時間目を偶数番号の方の方式は変わりません。どうぞよろしくお願いします。